NSA
Nippon Searchdog Association
K9

1 HRDトレーニング編：ブロックサーチの基礎

原臭への反応からTFR・識別・ゼロ回答へ段階的に発展させる

1 原臭への反応

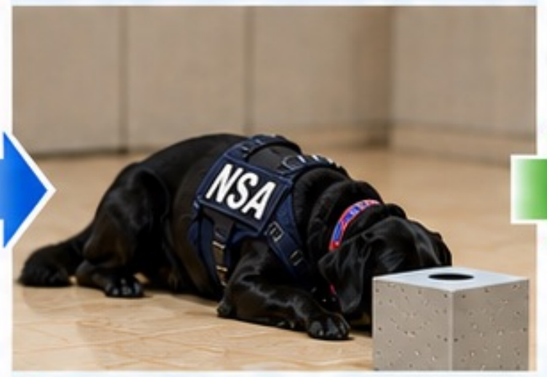
原臭の入ったブロックに反応したらマークと報酬



- 原臭の入ったブロックを単独で提示する
- 犬が原臭に興味を示した瞬間（においをかぐ・集中するなど）にマークし、報酬を与える
- この段階では伏臥を要求しない

2 TFR（伏臥）へ移行

原臭を認識した後、TFRができたらマークと報酬



- 原臭を認識した後、ブロックの位置で伏臥（TFR）ができたらマークし、報酬を与える
- 安定して伏臥できるよう繰り返し練習する
- ハンドラーの指示ではなく、犬の判断で伏臥できるようにする

3 ブロック数・配置のバリエーション

ブロックの数や並べ方を変え自ら探して発見する力を育てる



- 複数のブロックを配置し、犬が自ら探索して原臭を探す
- 直線・円形・ジグザグなど様々な配置パターンで実施する
- ブロックの数・間隔・配置を変え難易度を段階的に上げる
- 様々な環境（屋内・屋外・異なる床面など）で経験を積む

4 ゼロ回答の導入

原臭のない設定も行い正しく「ない」ことを示せるようにする



- 原臭の入っていないブロックのみを配置する
- 犬が全てのブロックを探索し、原臭がないことを示す行動を待つ（これ以上探さない・離れるなど、訓練で確立した対応）
- 無理にTFRをさせない
- 「必ずどこかにある」という学習にならないようにする

5 リカバリー（成功で終了）

ゼロ回答を行った場合でも必ず最後に原臭ありの設定で成功させて終わる



- ゼロ回答の後は、必ず原臭のある設定を行う
- 犬が正しく発見し、TFRできたことを確認して報酬を与える
- 成功体験でセッションを終了し、自信と意欲を維持する

ブロックの配置パターン例



成功のポイント

- ✔ 犬が自ら探す行動を待つ（誘導しない）
- ✔ 原臭に対する興味と正しい認識を育てる
- ✔ 段階的に難易度を上げる
- ✔ 様々な環境・配置で一般化を進める

注意点

- ✔ ブロックに犬を押しつけない
- ✔ TFRの前に報酬を与えない（ステップに応じて）
- ✔ ゼロ回答で無理にTFRをさせない
- ✔ 犬が混乱しないよう、段階的に進める
- ✔ 疲労や飽きを避け、短時間で実施する

重要：リカバリーのルール

- ✔ ゼロ回答を行った場合は、必ず最後に原臭のある設定を行う
- ✔ 犬が正しく発見し、TFRができたことを確認して報酬を与える
- ✔ 成功体験でセッションを終了する

NSA Nippon Searchdog Association K9

2 HRDトレーニング編：原臭のバリエーションと一般化

様々な原臭を経験し、環境や状態が変わっても認識できる力を育てる

① シグマシュート（F1・F2）



F1（初期腐敗）　**F2**（進行した腐敗）

- F1・F2は、シグマシュートと呼ばれる疑似遺体臭です。（白いガーゼに透明な液体）
- 腐敗過程によりよおいの違いを経験させる原臭です。
- 揮発しやすいため、保管には十分な注意が必要です。
- 時間と共ににおいが小さくなり、認識が難しくなります。
- 保管方法を誤ると、すぐに揮発し使用できなくなります。

② 血液のバリエーション（時間経過）



新鮮（採取直後）　数日　数週間　数か月〜数年

- 採取直後から数日・数週間・数か月・数年まで、幅広い時間経過の血液を経験させます。
- 時間の経過・保存状態により、においの性質が変化します。
- 乾燥した血液は、霧吹きなどで水分を与え、においを再び立たせて使用します。
- 古い＝使えないのではなく、様々な状態の原臭として経験させることが重要です。

③ 体の一部分の組織



歯（そのまま使用）　耳の軟骨部分（細かくカット）

その他の組織（例：皮膚・筋肉片など）　脂肪（液体で保存）

- 体の一部分の組織を経験させます。
- 部位により、においの特性が異なります。
- 入手・保管は、法令・施設の規定に従います。
- 単一の試料に依存せず、幅広い原験を認識できるようにします。

④ 複合臭・混合のバリエーション



血液＋組織（ガーゼ）　血液＋脂肪（ガーゼ）

F1＋血液（ガーゼ）　F2＋組織（ガーゼ）

- 血液に組織・脂肪、またはF1・F2を混合した状態を経験させます。
- 複合的なにおいの中から原臭を認識する力を育てます。
- 実際の現場に近い複雑なにおい環境にも対応できるようにします。

⑤ Getxent（吸着素材）



- Getxentは、実際の遺体からの移行臭をチューブに120時間かけてしみこませ、吸着させた素材です。
- 使用可能時間も浸透時間と同じ120時間です（連続使用可能）。
- 透明なチューブ（直径約5mm・長さ約3cm）を使用し、ガラス瓶で保管します。

トレーニングの例（様々な環境で原臭のバリエーションを経験させる）

室内



建物周辺（屋外）



草地・公園



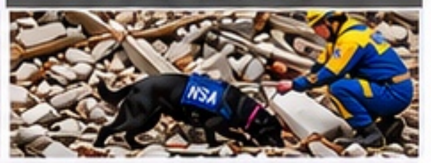
森林・山間部



資機材周辺



瓦礫・崩壊現場



成功のポイント

- ✓ 様々な原臭のバリエーションを経験させる
- ✓ 単一の試料に依存しない一般化を促す
- ✓ 環境や状態が変わっても原臭を認識できる力を育てる
- ✓ 犬の自然な探索行動を尊重し、正しくTFRで報酬
- ✓ 徐々に難易度を上げ、実環境へつなげる

注意点

- ✓ 原臭の取り扱いは法令・施設の規定に従う
- ✓ 衛生管理を徹底する（保管・使用時の安全対策）
- ✓ 異なる試料や状態での交差汚染を防ぐ
- ✓ 犬に過度なストレスをかけない
- ✓ 使用後の器具・容器を適切に処理する

次のステップへ

- ✓ この原臭のバリエーションを基に、H3「実環境への展開」へ進み、実際の検索環境での一般化を強化します。
- ✓ すべてのトレーニングは原則ブラインドで実施し、ハンドラーの無意識な誘導を防ぎます。

NSA Nippon Searchdog Association K9

3 HRDトレーニング編：実環境への展開

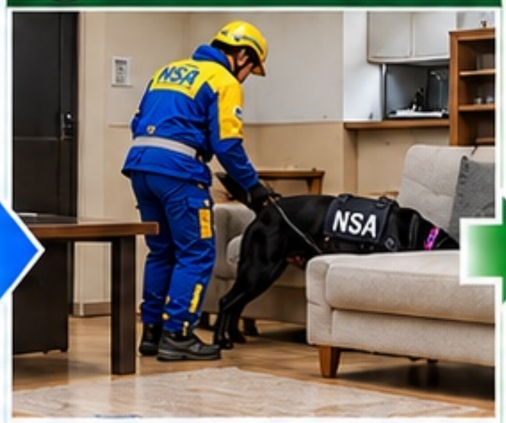
ブロックでの管理環境から、様々な実環境での検索経験を積む

① 管理環境から実環境へ



- ブロックでの基礎をもとに実環境へ移行する
- 環境が変わっても、原臭を認識し検索できる力を育てる
- 様々な場所・条件を経験し、一般化を進める

② 室内・住宅地



- 屋内の様々な部屋・家具・障害物の中を検索する
- 住宅地・人の生活環境での臭気の広がりを経験する
- 床下・天井・家具の裏など、隠れた場所からの臭気も経験する

③ 草地・公園・市街地



- 草地・公園・市街地など開けた環境を検索する
- 風・地形・障害物により変化する臭気の広がりを経験する
- 人・車・生活臭など様々なにおいの中で、原臭を認識する力を育てる

④ 森林・山間部



- 森林・山間部の複雑な地形で検索する
- 風・地形・植生による臭気の流れの変化を経験する
- 倒木・斜面・沢など、自然環境特有の条件でも原臭を認識できるようにする

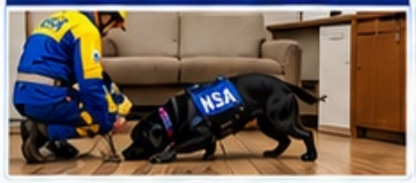
⑤ 建物・瓦礫など複雑環境



- 建物・瓦礫・崩壊現場など複雑な構造物を検索する
- 隠蔽・到達不能な場所からの臭気も経験する
- 臭気の流出位置が離れた場所になるなど、複雑な臭気の動きを経験する

実環境の例 （様々な環境・条件での検索経験を積む）

室内（住宅・施設）



住宅地



草地・公園



森林・山間部



建物内（空き家・施設）



瓦礫・崩壊現場



成功のポイント

- ✓ 様々な環境で原臭を検索できる経験を積む
- ✓ 環境の変化に応じた犬の行動を正しく観察する
- ✓ 隠蔽・到達不能・臭気の流出位置の違いを経験する
- ✓ 犬の自然な探索行動を尊重し、正しくTFRで報酬
- ✓ 徐々に難易度を上げ、実環境への適応力を高める

注意点

- ✓ 原臭の取り扱いは法令・施設の規定に従う
- ✓ 安全管理を徹底する（落下物・不安定な構造物）
- ✓ 犬に過度なストレスをかけない
- ✓ 周囲の人・動物への配慮を行う
- ✓ 使用後の器具・容器を適切に処理する

次のステップへ

- ✓ 様々な実環境で安定して検索できるようになったら、
- ✓ H4「複数ソース・ゼロ回答」へ進み、実際の検索条件での対応力を強化します。
- ✓ すべてのトレーニングは原則ブラインドで実施し、ハンドラーの無意識な誘導を防ぎます。

NSA
Nippon Searchdog Association
K9

4 HRDトレーニング編：複数ソース・ゼロ回答

複数の原臭が存在する状況と、原臭が存在しない状況を経験する

1 単一ソースの確認



- まずは単一の原臭で確実に告知できることを確認する
- 複数ソーストレーニングの基礎として、犬の理解を安定させる
- 同じ条件で繰り返し行い、精度を高める

2 複数ソースへの対応



- 複数の原臭が存在する状況を経験させる
- 犬が1つのソースに固執せず、すべての原臭を確認できるようにする
- ソース間の距離・配置・環境を変えながら、様々なパターンで経験を積む

3 ソースの位置・条件の変化



- ソースの配置場所・高さ・隠蔽・到達難易度など様々な条件で実施する
- ソース間の距離や数を変化させ、犬の捜索行動と告知の精度を高める
- 建物内・瓦礫・車両など実働を想定した環境でも経験させる

4 ゼロ回答（原臭なし）



- 原臭が存在しない状況を経験させる
- 犬が匂いを探し続けても告知しないことを学習する
- ハンドラーの指示ではなく、犬自身の判断でゼロ回答ができるようにする

5 複合パターンでの実践



- 複数ソースとゼロ回答を組み合わせ、より実働に近い状況で経験する
- 環境・配置・隠蔽条件を変え、様々なパターンで実施する
- 犬の捜索行動・告知の安定性と、ハンドラーの読み取りを強化する

トレーニングの例（様々な環境・条件で実施）

室内（住宅・施設）



住宅地



草地・公園



森林・山間部



建物内（空き家・施設）



瓦礫・崩壊現場



成功のポイント

- ✓ 複数ソース・ゼロ回答の両方を経験させる
- ✓ 犬の捜索行動を尊重し、誘導しない
- ✓ 様々な環境・配置条件で実施し、一般化を進める
- ✓ 正しいTFRでの告知と、ゼロ回答の両方を強化する

注意点

- ✓ 原臭の取り扱いは法令・施設の規定に従う
- ✓ 安全管理を徹底する（落下物・不安定な構造物）
- ✓ 犬に過度なストレスをかけない
- ✓ 周囲の人・動物への配慮を行う
- ✓ 使用後の器具・容器を適切に処理する

次のステップへ

- ✓ 様々な環境・条件での複数ソース・ゼロ回答を安定して行えるようにする
- ✓ H5「実働を想定した総合検索」へ進み、より複雑な状況での実践的な訓練に移行する
- ✓ すべてのトレーニングは原則ブラインドで実施し、ハンドラーの無意識な誘導を防ぐ